

## 平成 29 年 3 月 15 日号 「森のひと言」

「まちの再生 ～賑わいと潤いを取り戻すために」

今、三田市は「成長から成熟の時代」へと大きな転換期にあるなかで、私は二つの視点を大切にしています。

第一に、現在進行しつつある人口減少を食い止めるためのまちづくりを進めています。三田に魅力を感じ、若い世代や未来ある子どもたちに、いつまでも住み続けていただくとともに、市外から多くの人々に移り住んでいただくための取り組みを加速させたいと考えています。そのためには、まず大都市圏への転出を防ぐためにも、駅前を中心に都市基盤を整備し、「街の賑わい」を回復・創出するまちづくりを計画的に進めます。

また、三田の大きな魅力である「里山の潤い」を保全・活用して、古民家などをレストランや宿泊施設へリノベーションを促進することで、市外からも多くの人に訪れてもらい、三田の魅力を実感していただき「三田ファン」を増やしていきます。

第二に、人口が減少した社会を前提として「まちのスリム化、コンパクト化」へと転換を図ります。三田市は、以前、ニュータウンでの人口約 8 万 8 千人を含む、市の全体人口を約 15 万人と見込んでいました。しかし、現在約 11 万 3 千人にとどまっていることから、人口などを勘案した「まちのサイズ」に応じた、まちづくりを進める必要があります。また、多くの公共施設が本市の成長の時代に建設されており、それらの維持管理も「まちのサイズ」にあわせていかなければなりません。厳しい財政状況の中ではありますが、魅力ある成熟したまち三田をめざしてまいりますので、市民の皆さまのご理解・ご協力をお願いします。

## 平成 29 年 3 月 1 日号 「森のひと言」

「地域の創生 ～三田を元気にするために」

2 月 20 日、平成 29 年度三田市予算案等を市議会に提案いたしました。今回の予算案は、早期に行財政構造改革に着手し、財政の健全化を図るとともに、本市の目指す「成熟のまちづくり」を実現するため「明日の風がみえるまちへ 未来志向型予算」と位置づけて、三つの目標(①地域の創生、②まちの再生、③人と人との共生)に重点配分した予算編成を行いました。

特に地域の創生は、三田を元気にすることだと考えていますが、さまざまな取り組みの一つとして、三田に多くの人が集い、そして活躍する多様な機会を創出することが挙げられます。

三田は、多くの市民が大阪や神戸に通勤する「住宅都市」として成長してきたため、地元での商工業関係の職場が少なく、多くの農家が兼業農家になりました。また、

三田で育った子どもたちは、学校を卒業すると首都圏をはじめ、県外の企業に就職するケースも多くなっています。三田の子どもたちや市外に住む若者や子育て世代に三田に住んでもらうためには、働く場を確保することも重要であると考えています。そのためには、積極的な企業誘致を行うとともに、三田の魅力を活かした農業や起業などにチャレンジする若者や中高齢者を積極的に支援し、「生活・産業都市」へと転換を図ってまいります。また、高齢者に元気で生活していただくためにも、豊かな人生経験が活かせる職場が求められます。

「誰もが、働くことを通じて、一人ひとりが生きがいを持ち、人と人が心を通わせ、地域が元気になっていく、そんなまち三田」を目指して、さまざまな施策を推進していきます。

## 平成 29 年 2 月 15 日号 「森のひと言」

「成熟のまちづくりとは」

来年(2018 年)は、三田市制 60 周年となり、「還暦」を迎えます。三田市も、市制開始(1958 年)の時の人口約 3 万 3 千人から、現在は約 11 万 3 千人へと大きく成長してきました。また、人口減少・少子高齢化で市を取り巻く状況が大きく変わってきました。私は、人口減少・少子高齢化に伴う厳しい市の

財政状況の中では、「成長のまちづくりから成熟のまちづくり」への転換が不可欠と考えています。

私の考える「成熟のまちづくり」とは、「人」に例えれば、人生経験豊富で人望が厚く志が高い「成熟した大人」が行うまちづくりです。

成熟した大人は、Ⅰ「あれもこれも」と望むのではなく、限られた財源の中で「あれかこれか」としっかりと選択と集中を行います。また、Ⅱ「もったいない」の精神を持って、長く利用してきた施設やシステムをリフォームし、持続可能な資源に再生します。さらに、Ⅲお互い競い合いながら、「富を拡大・分配する」成長の構想ではなく、お互いに支え合う「豊かさを共有する」成熟の発想を持っています。これからの三田は、そんな「成熟した大人」のまちづくりを目指しています。

そのため、(1)新しいことにチャレンジできる仕組みを整え、まち全体に元気を生み出す「地域の創生」を、(2)市街地、ニュータウン、農村地域など、各地域の特性を踏まえたまちの再生を図る「まちの再生」を、(3)人のつながりを大切に、誰もが住みやすく、心のバリアがないコミュニティをつくる「人と人との共生」を、市議会をはじめ市民の皆さまのご意見をいただきながら進めてまいります。

## 平成 29 年 2 月 1 日号 「森のひと言」

「若者が集うまち三田へ」

昨年 12 月 21 日に市内の大学・短大で学んでいる学生の皆さんから、市のまちづくりについて 3 つの素晴らしい提案をいただきました。また、1 月 29 日には第 2 回高校生議会の場で、18 人の高校生から、市のまちづくりに若者らしい率直な質問・提案をいただきました。

私は、若者がまちづくりに関わってもらう意義は、3 つあると考えています。

第一は、未来の三田の主役は今の若者や子どもたちです。彼らには、三田の未来に向けたまちづくりに意見を言う権利とともに責任があります。

第二に、若者たちには「成熟した民主主義」の担い手として地方自治に関わり、自治会や消防団など地域のさまざまな活動にも理解を深め、将来の地域活動の担い手として育ててもらいたいと願っています。

第三に、若者、特に三田で学ぶまたは、三田から学校に通う学生がまちに多く集うことで、三田のまちは活性化することでしょう。学生の中には市外に住む人もいますが、通学途中の三田の街角で友達と語り合ったり、市内のさまざまなイベントに参加するだけでも、三田のまちを元気にしてくれます。

たとえ、学生時代の 2 年または 4 年間の市内滞在であっても、常に新しい風を届けてくれますし、三田でいい思い出を作ってもらえれば、「三田ファン」になってもらえます。ファンが増えれば、時間はかかるかもしれませんが、三田に住みたい、働きたいと思う人も増えてくるでしょう。

現在、学生の皆さんから「街角の学生カフェ」づくりや「学生会議」の創設、「学生のまちづくり推進条例」などさまざまなアイデアが提案されています。来年度の市予算や市役所での支援体制強化など、若者たちの熱いメッセージにしっかりと応えていくつもりです。市民の皆さまのご理解・ご協力をお願いします。

## 平成 29 年 1 月 15 日号 「森のひと言」

「未来への責任」

三田市にとって、今年は大きな節目の年となります。それは、「成熟したまちづくりのスタートの年」として位置付けているからです。総合計画の見直しをはじめ、教育、農業、公共施設の管理などに関するさまざまな計画を策定し、実行していく年となります。また、総合計画などを下支えする行財政構造改革も併せて進めていきます。その際に大切なことは、「未来への責任感」を持って、計画をまとめ上げるとともに実行していくことだと考えています。

三田市は、市制施行から半世紀以上を経て、まちの景観やまちに住む人々の結びつきも大きく変わっ

てきました。これから先三田のまちが、「無秩序なまちの姿」、「多大な財政負担」、「人と人とのつながりの薄い無縁社会」とならないよう、三田の未来を担う子どもや孫たちのことを考え、将来を見据えた大きな視点で、活発な議論をする必要があるのではないのでしょうか。

1996年に亡くなられた国民的作家である司馬遼太郎さんは、小学校の教科書の中で「今歩いている21世紀はどんな世の中ですか」と問いかけています。これは、子どもたちだけでなく、我々大人たちにも問いかけられたものではないかと私は感じています。21世紀も16年が過ぎました。人口減少・少子・超高齢社会が現実のものとなっているのに、未だ「成長の時代の発想」で考えてはいないか。21世紀の社会の主役となる若者や子どもたちに、「成熟の時代への展望」を持って、未来への責任を果たしていけるよう、皆さんとともに取り組んでまいります。

## 平成29年1月1日号 「明日の風がみえるまち 三田」を目指して

新年、あけましておめでとうございます。

今年が、市民の皆様にとりまして希望に満ちた輝かしい年になりますよう、心からご祈念申し上げます。

さて、今年、三田市の新たな都市ブランドを創造するスタートの年にしたいと思っています。三田の新たな都市ブランドとは、「明日の風がみえるまち」です。三田では、多くの「風」を感じることができます。日本のふるさとの原風景が残る田園を、歴史の息吹が感じられる駅前街並みを、そしてニュータウンの緑豊かな公園を吹き抜けていく風。風は、三田のまちの成長とともに、人と自然が共生しながら育んできた「まちの大きな魅力」です。三田は、急激な高齢化と人口減という厳しい時代の変化の中で、「成長してきたまちから成熟したまち」へ大きく変わっていかねばなりません。

「成熟したまち三田」とは、三田に生まれ育った人だけでなく、三田に移り住んだ人、三田で働いている人、三田で学んだ人たちも、誇りや愛着を持てるようなまちであること、さらには三田を訪れた人たちがまた来たくなるようなまちではないのでしょうか。

そのためには、三田を元気にするための「地域の創生」、まちの賑わいと潤いを取り戻すための「まちの再生」、そして人と人が支えあう「人と人との共生」を目指したまちづくりを着実に進めていくことです。

2017年を、市民の皆様と一緒に「成熟社会の明日」がみえるまちづくりを進める第一歩にしてまいりたいと決意しています。

## 平成28年12月15日号 「森のひと言」

「的確な民意の把握」

2016年も間もなく終わろうとしています。世界中が「感動と驚き」に包まれた一年だったように思います。リオデジャネイロ オリンピック・パラリンピックでは、多くの感動を世界中の人々がもらいました。また、オバマ米国大統領の被爆地広島訪問は、多くの人々に希望と感動をもたらしました。一方、英国の国民投票による「EU離脱」という選択、そして米国大統領選挙での「トランプ大統領誕生」という選択は、驚きの出来事であり、多くの人々の「想定外の選択」、「想定外の民意」だったのではないのでしょうか。

民主主義、特に「多数決による意思決定」は、人類が長い歴史の中で勝ち得てきた政治原理であり、これからも大切にしなければならないものです。しかし、時には多くの人々の想定外の結果を生み出し、人々の不安や社会混乱を招くこともあります。「民意」は不安定なもので、情報化が進めば進むほど、民意を想定することが難しいのかもしれない。

民意を正確に把握し、それを政策に反映していくことが、民主主義での行政の主要な役割であり、地方自治体においても同じことが言えるでしょう。市長(市役所)や市議会が市民の声に耳を傾け、できることを実行していくことは大切なことです。しかし、限られた財源では、多くの市民の声に応えたくて

も、一定の制約があるのも事実です。一定の制約があるものの、市役所はさまざまな提案について市民の皆さんに丁寧に説明するとともに、「未来への責任感」を共有しながら、市議会としっかり「熟議」を重ね、適切な判断を行ってまいります。

## 平成 28 年 12 月 1 日号 「森のまちづくり談話」

サンタが街にやってくる。 三田が楽しくなる。

「12 月、三田市は SANTA CITY になります。」こんなキャッチフレーズの楽しいプロジェクトを 12 月 1 日から 25 日まで、三田駅前を中心に市内の各地でさまざまなイベントを展開します。この事業は昨年、市民の有志の皆さんと市役所の若手職員とで構成されたプロジェクトチームで発案されたもので、2 回目の今年は、さらにバージョンアップして開催します。

子どもはもちろん、若者や高齢者も「子ども」にかえて楽しんでください。三田駅前のペDESTリアンデッキには大きなツリーが飾られ、仕事帰りの市民の皆さんや三田を訪れた市外の皆さんを温かく迎えてくれます。三田をサンタ (SANTA) と語呂合わせしてシティセールスに活用することにはいかなものかとのご意見もいただきましたが、「寛容な遊び心」で持ってご理解・ご支援いただきたく願っています。

サンタクロースのふるさとはフィンランドですが、以前、知り合いが三田市内の湖畔を訪れたとき、フィンランドの風景と似ているといわれました。それを機会にフィンランドのことをいろいろと調べてみると、社会保障、教育、産業振興および地方自治などにおいて、「成熟した社会制度」が整った国であることがわかりました。三田市においても、それぞれの分野でモデルになるものがあるのではないかと感じています。「関西のフィンランド 三田」そんな新しい地域イメージが発信できれば面白いのではないのでしょうか。



## 平成 28 年 11 月 15 日号 「森のひと言」

「一人ひとりのチャレンジを大切に」

今年の夏は、「盛夏」といえるほど日本中が歓喜に沸き、大いに盛り上がりました。リオデジャネイロで開催されたオリンピックおよびパラリンピックでの日本の若者の活躍に、多くの日本人が感動をもらいました。

三田にも朗報が届きました。パラリンピックでの競泳自由形 50m で山田拓朗選手が銅メダルを、陸上 400m で北浦春香選手はアジア新記録で 6 位入賞と輝かしい成績を収められました。三田出身の若いアスリートが三田市民に「感動と勇気」を、三田っ子に「夢」をもたらしてくれました。さらに、兵庫ブルーサンダーズから 2 人の選手が日本プロ野球のドラフト会議において、育成枠で指名されました。また、若者だけでなく元気な高齢者が「還暦野球」などで、全国レベルで頑張っておられます。

スポーツは、アスリートにチャレンジする気持ちを育みます。応援する人たちはその姿をみて感動し、共感が生まれます。素晴らしい活動だと思います。多くの市民が、スポーツを通じて「夢」に向かってチャレンジするとともに、周りの人々がしっかり応援する、そんな「元気なまち三田」を共に創っていきましょう。

来月 18 日には、5200 人を超えるランナーが第 28 回三田国際マスターズマラソンにチャレンジされます。ランナーの皆さんの「夢」へのチャレンジに、「熱い声援」と「温かいおもてなし」をよろしくお願いします。

## 平成 28 年 11 月 1 日号 「森のまちづくり談話」

不易流行(ふえきりゅうこう) ～ 地域文化の創造 ～

10 月は、市内各地の神社で「秋祭り」が催されました。私は、三田が最も輝く季節は秋であると感じています。境内の近くでは笛や太鼓の音が鳴り響き、子どもから高齢者まで楽しんでいる風景は、三田の長い歴史の中で育まれてきた「豊かな地域文化」です。三田は、摂津北部に位置し、丹波および播磨に接する十字路にあることから、特色ある地域文化が積み重なったところです。歴史に育まれた三田の地域文化は、未来の世代にしっかりと伝えていかなければなりません。

一方、11 月に入ると「第 49 回三田市民文化祭」が、1 日から 1 カ月間、市内各地で開催されます。さまざまなジャンルでの「市民主役の地域文化活動」が発信されます。市民の皆さんによる新しい文化の創造活動が盛んに行われてきたのも、三田の「豊かな地域文化」の表れです。ぜひ、多くの市民の皆さんに楽しんでいただきたいと思います。

「不易流行」という松尾芭蕉の有名な言葉があります。いつまでも変化しない本質的なものの中にも新しさを取り入れて変化していくという俳諧理念ですが、地域文化にも通じるものだと思います。三田の歴史に育まれた本質的なものを守っていく、その上に、市民の皆さんの新たな取り組みを積み重ねながら、より豊かな地域文化を育てていく。それが、「成熟した地域文化の振興」であり、文化を通じた「成熟したまちづくり」につながるものだと考えています。それを市としても、しっかりサポートしていきます。

## 平成 28 年 10 月 15 日号 「森のひと言」

「生きがいづくり、人づくり、地域づくり」

私はこの春、「さんだ生涯学習カレッジ」の入学式や、9 月に市内各地で招かれた敬老会で、よくこのキーワードを使いました。高齢者のみなさんが、いつまでも元気で輝いていただくためのヒントになればと、三つの願いを込めています。

まず第一に、日々の生活で「生きがい」を感じるものを一つでも持っていただきたいと思います。趣味を見つけて楽しんだり、現役時代とは違った仕事を始めたり、孫の子育てを手伝ったりなど、何でも良いので「生きがい」を作ってください。

第二に、話し相手になる友人をつくってください。それぞれ異なる人生経験を得た友人から、新しい人生の発見をしてください。さまざまな人との交流を通じてお互いの新たな「人(人格)づくり」を始めてください。

第三に、住んでおられる地域に関心を持っていただき、できれば関わりを持ってください。例えば、子どもの見守り活動に参加したり、自治会などが主催するイベントに参加するなど、「地域づくり」に参加してください。

「生きがいづくり、人づくり、地域づくり」を通じて、一人でも多くの高齢者がいつまでもお元気でいていただきたいと思います。ご家族をはじめまわりの人たちは、元気で輝いておられる高齢者の方々から、元気をいただいています。そんな小さな一人ひとりの取り組みによって、三田の各地で高齢者がいきいきと活躍し多世代が交流する「成熟したまち」になっていくのではないのでしょうか。

## 平成 28 年 10 月 1 日号 「森のまちづくり談話」

～ 四つの改革 ～ 四つ目 『地域を元気にする改革』

～ 成長するベッドタウンから 成熟するコミュニティへ ～

三田市が誕生した 58 年前は人口約 3 万 3 千人のまちでしたが、昭和 50 年代の北摂ニュータウンの開発に伴う JR 福知山線の複線化・電化などにより、大阪方面への通勤時間が大幅に短縮されました。「緑豊かなベッドタウン」を求めて多くの人が入転され、三田市は約 11 万 3 千人の「田園文化都市」へと成長してきました。

一方、「ベッドタウン」として成長したこともあり、ニュータウンを中心に自治会などの活動に多くの課題が生まれました。「税金を市に納めているのだから自治会に入る必要がない」「自治会に魅力を感じないので入会しない」「仕事が忙しいので自治会の役員は断る」などの声が聞かれます。区・自治会への加入は強制できませんが、これらの声に違和感を覚える人も多くいるのではないのでしょうか。自分や家族と職場とのつながりを大切にしても、住む地域とのつながりを大切にしないライフスタイルから「成熟さ」を感じとることは難しいです。

また、農村地域においては、大都市への通勤者が増えたため、兼業農家が増えるとともに農業の担い手が少なくなりました。農村地域が大事にしてきた地域の安全・安心は地域に住む人が力を合わせて守っていくというライフスタイルが崩れていく心配もあります。

成熟社会にふさわしい新たなコミュニティを構築することが市政の大きな課題であり、市民の皆さんと一緒に取り組まなければならない重要な地域課題です。成熟した地域づくりのためには、行政に要望するだけでなく行政と協働して地域への関わりを深めていく「自律した市民活動」の育成が期待されます。例えば、地域の安全・安心は防犯カメラの設置だけでなく、見守り活動を通じて、地域みんなで守るという意識を醸成することも大事なことです。市としては、これから、成熟社会にふさわしい新たなコミュニティを市民のみなさんと創りあげていきたいと考えています。

## 平成 28 年 9 月 15 日号 「森のひと言」

### 「夏の思い出」

9月になり、日中には厳しい暑さは残るものの、朝夕は少しずつ涼しさを感じられるようになりました。ことのほか、厳しい暑さが続いた今年の夏でしたが、市民の皆さんはどのように過ごされましたか。また、新たな「夏の思い出」はできましたか。私ごとで恐縮ですが、多くの公務が続く7月と8月でしたが、二つの「夏の思い出」ができました。

一つ目は、42年ぶりに24人の同窓生と再会できた大学時代のクラブの同窓会でした。誰もが、「企業戦士」として会社や役所のために人生の大半を過ごしながらも、家族への深い愛情を支えに生き抜いてきたと感じました。そして、40年以上も前に一緒に山野を歩き回った「夏の思い出」を語り合いました。

二つ目は、近所の有志の皆さんが企画されたラジオ体操の集まりです。「朝早くからの大きな音は迷惑だ」という意見もあり、遠慮気味に公園の隅で行われました。私は妻と二人で参加し、高齢者と子どもが交流する楽しい時間をともに過ごすことができ、素晴らしい「夏の思い出」となりました。

かつて日本の各地では、夏休みに多くの子どもたちが元気よく大きな声で体操をし、終わってから外で遊ぶ姿がみられたものです。大人になっても心に残る「夏の思い出」ではないのでしょうか。多くの日本人にとって、大切な「夏の思い出」だと思います。

ラジオ体操は一つの例ですが、大人になっても三田の子どもたちにいつまでも心に残る素晴らしい「夏の思い出」が積み重ねられるよう、「心のふれあいまちづくり」を市民の皆さんと一緒に進めていきます。

## 平成 28 年 9 月 1 日号 「森のまちづくり談話」

### ～ 四つの改革 ～ 四つ目 『地域を元気にする改革』

地域を元気にする改革は、一つには三田の魅力を高め、地域経済を活性化すること、二つには成熟社会にふさわしい新たなコミュニティを構築することだと考えています。今回は、「地域経済の活性化を目指した改革」についてお話しします。

これからの三田の産業政策は、従来から進めている【1】関西三都(大阪、神戸、京都)へのアクセスの良さを活かした企業誘致および【2】食と結びついた農業や観光の振興に加え、【3】学びのまちを活かした創業支援を積極的に進めることです。

そのために重要なことは、多彩な人材の育成と活用です。その第一歩として、10月頃、(1)経験豊富で優れた専門知識・技術を有する元気な高齢者を応援する「いきがい応援プラザ」、(2)さまざまな分野で活躍している女性の子育てを応援する「子育て世代包括支援センター」、(3)科学技術に親しむ子どもを育てる「こうみん未来塾」、(4)チャレンジ精神に富んだ若者の創業を促進する「創業支援事業」などのオープニングが続きます。

多世代にわたる市民のみなさんが「進取の精神」をもって頑張ってくださいと、三田の経済を活性化させ、三田を元気にすることにつながるものと期待しています。これからも、三田市ではさまざまな「仕掛け」を市民のみなさんとともに考え、提案し実行していきます。

## 平成 28 年 8 月 15 日号 「森のひと言」

就任 2 年目を迎えて ～ 新たなスタートを ～

昨年の 8 月 8 日に第 7 代三田市長に就任してから一年が経過しました。この間、市長の仕事の厳しさを日々感じましたが、とにかく前を向いて進もうと走り続けました。市長としてさまざまな所で多くの市民の皆さんとお会いし、頑張っておられる姿を通じて、それぞれの方々から「元気になるエール」をいただいたことに深く感謝申し上げます。

時には、厳しいご意見をいただくこともあり、市政のまとめ役であり最終責任者である自分の未熟さに自信を失うこともありました。が、「批判は期待の裏返しだ」という先輩首長の言葉に励まされ、反省と改善に努めてきた一年でした。また、時には職員に高いハードルを設定したため、戸惑う職員も多かったようです。立ち止まりながらも何とかハードルを乗り越えてくれると期待しています。

一方、今、市は「成長したまちから成熟したまちへ」の大きな変革の時代を迎える中で「地域創生と行財政構造改革」の実現を目指して市政を推進していきます。そして、今なお三田の大きな課題である「市内の多様な地域の融合」を市民一人ひとりのつながりを大切にしながら着実に進めてまいります。

就任 2 年目を迎えて、改めて「進取の精神と未来への責任感」を胸に刻みながら、「賑わいと潤いのある成熟都市 三田」を目指して、新たな市政をスタートします。市民の皆さんのご理解とご支援をよろしく願います。

## 平成 28 年 8 月 1 日号 「森のまちづくり談話」

～ 四つの改革 ～ 三つ目 『安全・安心の改革 その 2』

～ 先進性と持続可能性を ～

今、全国各地で「地方創生」という名の地域間競争が活発化しています。特に、人口減・超高齢化・超少子化が進行するなかで、三田市をはじめ各自治体は、切れ目のない子育て支援を中心とした福祉・医療政策に力を注いでおり、地域間で転入・移住を競い合っています。

国の政策から一歩踏み出した「先進性」を競い合うことは、自治体の独自性を発揮することであると評価されていますが、日本全体の人口の自然増につながるのか疑問の声も聞かれます。また、超高齢化・超少子化が続き労働人口と税収が減少していく中では、自治体の財政を圧迫し、後の世代に借金返済のため、多額の税金などを負担していただくことにもなりかねません。

福祉・医療などの社会保障制度は、「地域格差を生じさせないため国が責任を持って構築する部分」と、「地域特性を加味した自治体独自の先進施策を持続可能な範囲で行う部分」があります。

また、自治体内でも限られた財源の中で、「高齢者施策、障がい者施策、子育て施策などにどのように配分していくのか?」、さらに「公助と共助をどのように組み合わせしていくのか?」、難しい選択があります。



高齢者と子どもの  
交流・支え合い

後の世代に過度の負担を与えないよう「先進性と持続可能性のある社会保障システム」について、成熟した議論を進めていかねばなりません。市民の皆さんのご理解をお願いします。

## 平成 28 年 7 月 15 日号 「森のひと言」

～ 成熟したまちへ チーム三田の心で ～

7月2日午後、高平地区の酒井にある古民家で、移住促進のため市民の立場から活動をする「さんだ住まいるチームメンバー」の就任式を行いました。就任式の後、皆さまと親しく懇談させていただき有意義な「チームの出発の日」となりました。関係者の皆さまに深く感謝申し上げます。

今、市は「成長から成熟へのまちづくり」が大きな課題となっています。(1)「開発中心のまちづくりから持続可能なまちづくりへ」(2)「都市化中心のまちづくりから都市と田園の共存のまちづくりへ」そして(3)「多様性尊重のまちづくりから多様性尊重と共生のまちづくりへ」と大きく舵を取らなければなりません。特に3つ目は、三田まちづくり憲章のもとに進めてきた「市民参加の拡大・充実」に加え、一人ひとりの多様性尊重とともに人と人とのつながりをも大切にする「共生・協働の仕組みの拡大・充実」へと進めていくことが求められています。



さんだ住まいる  
チームメンバー

この3月に策定した三田版総合戦略の戦略イメージでもある「魅力を高め、強みを活かすチーム三田」はこうした仕組みを目指すものです。「さんだ住まいるチーム」には、要求や意見を言うだけでなく自ら行動もする「成熟した市民」からなる「チーム三田」のモデルになっていただきたいと願っています。

## 平成 28 年 7 月 1 日号 「森のまちづくり談話」

～ 四つの改革～ 三つ目 『安全・安心の改革 その1』

～ 確かなリスクマネジメントの組織へ 一人ひとりが助け合う地域へ ～

先日終了した第336回市議会定例会では、市民の関心の高い「防災」について活発な質疑が交わされました。市としても「安全・安心の改革」を積極的に進めていかねばなりません。まず、「公助」として、市役所全体がしっかりとリスクマネジメントの行える組織に変わることです。大災害時には、日常の業務体制から非常時の危機管理体制へ迅速に切り替えることが必要です。各地域の避難所の開設などもしっかりと対応しなければなりません。また、市職員だけでは十分に対応できない場合には、国や他の自治体の応援を受け入れる柔軟性を持つことも大切です。市の危機管理対応の専門職員を増やすだけでなく、普段から市職員が危機時の役割を十分意識するとともに、他の組織からの応援者の受け入れ態勢をしっかりと考えておかなければなりません。

一方、市役所の公助だけでは不十分です。各地域での避難行動要支援者などへの助け合いの仕組み(共助の取り組み)を、区・自治会を中心に普段から作り上げていただかなければなりません。市としても各地域の共助に対し積極的な支援を行ってまいります。

こうした市役所による「公助」、各地域による「共助」のベースになるのが、市民一人ひとりの「自助」です。「自助」の心構えをしっかりと持っていたいただかなければ「公助」、「共助」がうまく機能しません。市民の皆さまのご理解・ご協力をよろしくをお願いします。

## 平成 28 年 6 月 15 日号 「森のひと言」

～ 「まちの歴史」を大切にするまちへ ～

先日、兵庫県指定重要有形文化財である旧九鬼家住宅で開かれた「九鬼茶会」に参加しました。茶道には門外漢の無作法な私ですが、ボランティアのみなさんの「爽やかなおもてなし」に心地よい一時を過ごさせていただきました。そして「茶道と九鬼家に関わる物語」に改めて、歴史のロマンを感じるこ



とができました。

三田は、古くから、摂津、丹波そして播磨の結節点(クロスロード)であり、それぞれの風土が融合した独特の地域文化に育まれた土地です。また、九鬼家の歴史にみられるように「時空を超えた海へのロマン」が息づく土地ではなかったでしょうか。そして、九鬼隆義、白洲退蔵、川本幸民などの偉人たちに代表されるように、進取の気風に溢れた土地でもあったのではないかと思います。

三田の子どもたちに「ふるさと三田への関心」を、三田の若者たちに「ふるさと三田の誇り」を、三田の高齢者に「ふるさと三田への愛着」を抱いてもらうよう願っています。市は、市教育委員会と連携しながら、「まちの歴史」を大切にするまちづくりを市民のみなさんとともに進めていきたいと考えています。



庭から見た旧九鬼家  
住宅資料館

### 平成 28 年 6 月 1 日号 「森のまちづくり談話」

～ 市役所の改革 「風通しのいい組織風土」づくり ～

この度、長きにわたる職員の通勤手当の不正受給という不祥事が発覚するとともに、4月から市が行う事務にミスが相次ぎ、多くの市民の方々に多大なご迷惑をおかけしました。また、民間施設からの灯油流出事故の公表が遅くなったという不適切な職務執行もあり、市政に対する信頼を大きく損なうことになりました。市民の皆さまには、深くお詫び申し上げます。

「三田市役所のトップ」として責任を強く感じております。職員による不祥事やミスそして、不適切な職務の執行の原因は、第一に担当する職員および指揮監督する管理監督職員一人ひとりの対応に問題があるのですが、多発していることを考えれば、組織的な問題が背景にあると認識せざるを得ません。

不祥事はもちろん、ミスがあれば、迅速かつ的確に情報開示するとともに、起こった原因を徹底的に究明し、市役所全体で問題点を共通認識したうえで、効果的な再発防止策を確実に実行していかねばなりません。そして、「職員間の職制・セクション」を超えた自発的なコミュニケーションが行われる「風通しのいい組織風土」を早急につくり上げていきます。

なお、これからの三田市のあり方を考えれば、市職員がミスや失敗を恐れるばかりに、新しい政策や困難な課題に挑戦することを避けてはいけません。時代が大きく変わろうとしている中で、三田市を取り巻く状況には、非常に厳しいものがあります。今、ピンチをチャンスに変えていこうとする「高い志・強い心」が市職員一人ひとりに求められています。市民の皆さまのご理解・ご指導・ご支援をよろしくお願いいたします。

### 平成 28 年 5 月 15 日号 「森のひと言」

～ 三田の物語・遺産を ～

私の好きな言葉の一つに、「生きることは、自分の物語を作ることである」というのがあります。これは、兵庫県出身で著名な心理学者であった故河合隼雄先生が、著名な女流作家との対談の中で語られた言葉です。この言葉に、「自分だけの人生である。自分が人生の主人公であり、他人の目を気にし過ぎずに主体的に生きる」というメッセージを感じ、私自身、時としてくじけそうになるときに勇気をもたらしてきた言葉です。

この言葉を今、全国各地で進められている「地方創生」に置き換えれば、「地方創生とは、自分の地域の物語を作ることである」と言えるのではないのでしょうか。地方創生を語るときによく言われるのは、「他の地域での成功例を同じように持ち込むこと」というのがあります。しかし、他の地域での成功例は、その地域の魅力や特色を十分に活かした結果の成功であり、必ずしも真似ることで同じように成功するとは限りません。

地域の人々が、自分の地域の魅力や特色をよく知り、物語としてまとめることにより、地域の資源が一体となって発信され、域外の人たちに分かりやすく伝わるのではないのでしょうか。三田の地方創生を進める際に、「地域の物語をつくること＝地域のさまざまな資源をストーリー・レガシーとして組み合わせること」を意識して行う必要があると思います。

ふるさと三田の歴史的な魅力や特色を、自信を持って、未来の日本や世界の人々に伝えていく「三田の物語あるいは遺産」として発信していきたいと願っています。

## 平成 28 年 5 月 1 日号 「森のまちづくり談話」

～ 支援の輪を広げ、安全・安心なまちづくりを ～

去る 4 月 14 日と 16 日に熊本県を中心に九州で最大震度 7 を 2 度も記録した激しい地震が発生し、甚大な被害となりました。亡くなられた方々には、心からお悔やみ申し上げますとともに被災者の方々には心よりお見舞い申し上げます。一日も早い復旧・復興に向け、支援させていただきます。

今回の地震で、改めて日本列島は「災害危険列島」ではないかと大きな不安を抱かれた市民のみなさんも多かったのではないのでしょうか。しかし、阪神・淡路大震災、東日本大震災など多くの大災害を体験・共感してきた私たちは、未来の日本を背負う子どもたちのためにも、これらの大災害を乗り越えて日本列島を「防災・減災列島」にそして、「助け合い・支えあい列島」にしていかなければなりません。

三田市においても、いち早く消防職員 5 名を派遣し、被災地で被害情報収集や安否確認などの活動を行いました。また、「三田市災害等支援本部」を立ち上げ、兵庫県などと連携しながら、熊本県益城町を中心に積極的に職員を派遣するなど支援活動を展開していきます。

さらに、今回の地震を契機に、この 4 月に新たに設置した危機管理監を中心とした危機管理体制をさらに強化するとともに、各地域のみなさんの協力を得て「避難行動要支援者ネットワーク」を一日も早く構築するなど安全・安心なまちづくりを進めていかなければなりません。

また、募金活動やボランティア活動などの「三田市民からの支援の輪」を広げていただきたいと願っています。三田市民の一人ひとりのご支援をよろしく願います。

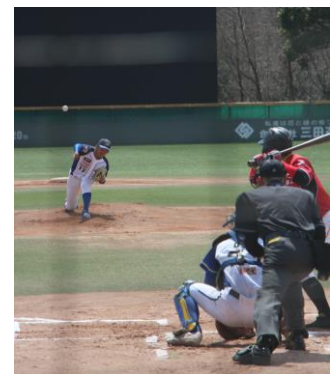
## 平成 28 年 4 月 15 日号 「森のひと言」

～ 夢を育むまちへ ～

武庫川の堤の桜が、一斉に咲きそろった 4 月 2 日、城山公園にあるアメニスキップスタジアムで兵庫ブルーサンダーズの開幕戦が行われました。私も始球式に招かれ、球場に訪れたファンのみなさんと一緒になって応援させていただきました。試合の結果は、緊迫した投手戦で 0 対 0 の引き分けでした。

6 年前に三田で産声をあげた兵庫ブルーサンダーズの選手たちには、プロ野球のドラフト会議に選ばれ、プロ野球選手になりたいという「大きな夢」があります。私もぜひ、三田のチームからプロ野球で活躍する選手を、一人でも多く輩出してほしいと願っています。

また、野球だけでなくボクシングや他のスポーツでも全国レベル、さらには世界的なステージを目指す若者が三田から多く出てもらいたいと思っています。そして、スポーツの分野だけでなく、文化芸術そして科学技術などでも活躍したいという大きな夢をもった若者や子どもたちを、市民の一人ひとりがあたたかく応援する、「夢を育むまち」を創り上げたいと願っています。若者や子どもたちが自分の夢に向かってこつこつと努力する姿は、我々大人を元気にしてくれるものです。



開幕投手で最速 151km  
の山川投手のピッチング

## 平成 28 年 4 月 1 日号 「森のまちづくり談話」

～ 四つの改革 ～ 二つ目 『市役所の改革』

例年より早く桜が開花した今春、三田市役所においても、4月1日付の組織改革と人事異動を行いました。今回のテーマは、市が進めようとしている「市役所の改革」です。

市役所の改革は、(1) 成熟社会の自治体に見合った組織改革、(2) 適正かつ効果的な人材登用、(3) 「市民と同じ目線」と「高い志」を持った職員への意識改革、そして(4) 人口減・超高齢少子時代にふさわしい健全財政の推進が柱です。今回は4本の柱のうち、組織改革と人材登用についてお話しします。

まず、スピーディーな意思決定・執行のためにフラットでコンパクトな体制と危機管理体制の強化をメインに大規模な「組織改革」を実施しました。これにより、市役所内の風通しを良くし、職員間の情報共有を強化することで、これまでよりスピード感ある市民サービスの向上を目指します。

次に、「人材の登用」ですが、従来から市では、いわゆる年功序列ではなく、能力本位の人事に努めているところですが、地域間競争が激しくなる中、一層の能力本位・適材適所の人事に努めなければなりません。私の体験からも、公務員にとって人事異動は、「人生ドラマのワンシーン」であると思います。市職員にとって、人事異動に対する思いはさまざまですが、「得意淡然、失意泰然」という言葉もあるように、今回の人事異動をバネとして、一人ひとりの市職員が市民のために大きく伸びてほしいと強く願っています。市民の皆さんのご理解とご支援もよろしくお祈りいたします。